

(別紙様式3)

令和2年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 様

住 所 千葉県千葉市中央区市場町1-1
管理機関名 千葉県教育委員会
代 表 者 澤 川 和 宏 印

令和元年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成31年4月1日(契約締結日)～令和2年3月31日

2 指定校名

学 校 名 千葉県立佐倉高等学校

学校長名 上市 善章

3 研究開発名

「日本の歴史・伝統・文化を踏まえて多文化共生社会を構築するグローバル・リーダーの育成」

4 研究開発概要

千葉県立佐倉高等学校の目指すグローバル・リーダーに必要な資質・能力等を育成するために、普通科生徒全員を対象に課題研究を「GL探究」において実施し、グローバルな社会課題についての研究に取り組み、研究成果を英語または日本語で発表する。加えて、学校設定教科「グローバルラーニング」、海外研修、大学や企業等と連携した講座や国内研修等を実施し、課題研究に向けた取組の深化とグローバル・リーダーに必要な資質・能力等の育成を図る。また、国内外の研修や留学生等との交流を通して異文化理解を深め、コミュニケーション能力の向上を図る。「海外に自信をもって発信できる日本の歴史、伝統、文化を語れるようにする、研究したいグローバル社会における課題を見つける、英語でプレゼンテーションができるようにする、課題研究の進め方を理解する」ことができることを目標とした。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導協議会				○				○				○
千葉大学との 連携支援				○	○	○		○		○		○
学校訪問 事業視察				○				○		○		○

(2) 実績の説明

ア 運営指導協議会

次の5名に運営指導協議員の委嘱を行った。

片岡 寛	一橋大学 名誉教授
岡田 民雄	日本ルツボ株式会社 社友
阿古 智子	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 准教授
藤井 剛	明治大学文学部 特任教授
足立 欣一	千葉大学高大連携室 特任教授

令和元年度は、運営指導協議会を3回開催した。協議員の先生からは、協議会における貴重な指導・助言をいただいたほか、佐倉国際交流基金との連携や大学研究室訪問、留学生の派遣など本事業に係る生徒の活動を積極的に支援していただいた。

(ア) 第1回運営指導協議会（令和元年7月12日 千葉県立佐倉高等学校）

管理機関からの出席者 小西 一央（千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事）

(イ) 第2回運営指導協議会（令和元年11月26日 千葉県立佐倉高等学校）

管理機関からの出席者 小西 一央（千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事）

(ウ) 第3回運営指導協議会（令和2年3月19日 千葉県立佐倉高等学校）

管理機関からの出席者 小西 一央（千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事）

イ 千葉大学との連携支援

平成31年4月にスーパーグローバル大学である千葉大学と本年度も継続して連携し研究開発に取り組むことを千葉大学高大連携担当と確認した。主な連携支援は次のとおり。

(ア) 国際教養学部

小林聡子准教授，ガイタニディス・ヤニス助教による生徒の課題研究の指導・助言（個別対応）

(イ) 高大接続センター

足立欣一特任教授による千葉県立佐倉高等学校研究開発に係る指導・助言

(ウ) 国際未来教育基幹

留学生の派遣及び生徒の課題研究の指導・助言

(エ) 環境 ISO 学生委員会に参加

ウ 学校訪問・事業視察

(ア) 令和元年7月12日 千葉県立佐倉高等学校

第1学年のGL探究（総合的な探究の時間）を参観後、SGH事業の進捗状況・今年度の取組について確認し、指導・助言を行った。

管理機関からの出席者 小西 一央（千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事）

(イ) 令和元年11月26日 千葉県立佐倉高等学校

1学年のGL探究（総合的な探究の時間）のグループごとの「ミニ発表会」を参観後、実施状況及び生徒の活動状況について指導・助言を行った。

管理機関からの出席者 小西 一央（千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事）

(ウ) 令和2年年3月19日 千葉県立佐倉高等学校

SGH課題研究発表会のポスター発表及び口頭発表の視察が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発表会が中止されたことを受け、今年度全体の取組に対する総括的な指導・助言を行うとともに、最終年度と本事業終了後の展望についての指導・助言を行った。

管理機関からの出席者 小西 一央（千葉県教育庁教育振興部学習指導課 指導主事）

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導協議会の開催				○				○				○
校内の研究体制整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携機関との連携計画作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
課題研究に関する教員研修	○	○	○	○						○		○
課題研究「GL探究」	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育課程の編成（地歴・公民）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育課程の編成（GLアクティブ）				○	○	○	○	○		○		
国内グローバル研修						○	○					
海外グローバル研修実施				○	○	○		○				
海外グローバル研修検討・計画作成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大学との連携	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
企業・国際機関との連携			○	○	○	○	○	○	○			
教育課程の編成（外国語）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
英語力向上対策講座等			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
地域や同窓会との連携					○	○	○	○	○	○		○

(2) 実績の説明

年間を通してSGHの対象となった生徒数849名（普通科第1学年280名 第2学年284名 第3学年285名）

ア 研究全体の環境整備と研修

(ア) 運営指導協議会の開催

- ・令和元年7月12日，11月26日，令和2年3月19日に開催した。
- ・課題研究の方法と進め方，成果の発信，評価方法等について指導・助言を受けた。

(イ) 校内の研究体制整備

- ・研究の方向性や計画について検討する「SGH推進委員会」，研究開発を進める上での具体的な計画を立てて運営する「SGH実務担当チーム」，研究開発を進める上での具体的な運営を補佐する「SGHサポートチーム」を編成し研究体制を確立した
- ・今年度より新たに「探究学習部」を校務分掌として創設し，SSHとの連動を図りながら，課題研究の進め方，評価方法等について討議し，探究活動の充実を図った。

(ウ) 連携機関との連携計画作成

- ・千葉大学国際教養学部と連携し，研究開発の指導・助言，職員研修，講師の派遣等を計画
- ・東京大学・東京外国語大学・筑波大学と連携し，模擬講義及び研究室訪問等を計画
- ・国立歴史民俗博物館と連携し，博物館の利用及び講師の派遣等を計画
- ・JICA，DIRECTFORCEと連携し，講師派遣を計画
- ・シーボルトハウスと連携し，オランダでの交流校及び研修について計画
- ・クレアシンガポール事務所及びセントジョセフインスティテューションと連携し，シンガポールでの研修について計画
- ・ナンボークリスチャンカレッジと連携し，オーストラリアでの研修について計画
- ・ツェツィリアンギムナジウムと連携し，ドイツでの研修について計画
- ・クレアロンドン事務所及びホリポートカレッジと連携し，イギリスでの研修について計画

(エ) 課題研究に関する教員研修

- ・年度当初に課題研究の在り方・進め方について研修を実施するほか，年間を通し，各教科の視点から効果的な課題研究の進め方について討議し，生徒に還元した。

イ 課題研究「GL探究」（研究開発1）

普通科第1・2・3学年（各7クラス）を対象に，「総合的な学習の時間」（2・3年），「総合的な探究の時間」（1年）で実施。今年度入学生より教育課程が「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」に変更。また，1学年の「総合的な探究の時間」は1単位から2単位に増加。

(ア) 第1学年対象

- 「探究学習の手法を学ぶ講座」（16時間）1年次の到達目標の確認と課題研究の進め方についての系統的に学習する。すべての教科で担当ごとに分担し学習に当たる。海外研修経験者の報告も随時実施。
- 「課題研究のテーマ等を決める」（6時間）自分の興味関心のある研究テーマを発表し，4人程度の研究グループを編成する。研究テーマの設定理由・仮説・具体的な研究方法等について検討する。
- 「課題研究発表会に向けて」（16時間）グループ単位で研究を進める。小グループでの発表活動を通じて，発信力の精度を高め，互いの研究を深める。ポスター発表に

向けて準備する。第2学年理数科生徒のSSH課題研究の発表を見学し、ポスター発表の方法を習得する。

d 「講演」等（2時間）JICA海外ボランティア経験者及びDIRECTFORCE授業支援の会2名による海外での活動から見るグローバルな課題についての講演会を実施。

e 「発表を経験する」（8時間）グループ単位で数回の発表を行う。発表・整理と分析・修正のサイクルを数多く経験する。

(イ) 第2学年対象

a 「課題研究を進める」（10時間）グループ単位での研究の見直し、テーマを再設定し、調査・フィールドワークの計画を立てる。

b 「課題研究発表会及び報告書作成に向けて」（16時間）グループ単位で調査結果を分析し、結論・提言をまとめるとともに、プレゼンテーションに向けて準備を行う。小グループでの発表を繰り返すことにより、研究内容の共通理解を図る。プレゼンテーションソフトとプロジェクターを活用した発表を学ぶ。

(ウ) 第1・2学年対象

a 「海外研修報告」（2時間）イギリス、ドイツ、オーストラリア、シンガポール研修の報告

b 「互いのプランを深め合うクラス発表会」（3時間）グループごとに課題研究の発表を行い、外部・内部からの助言及び評価を実施

c 「SSH・SGH合同課題研究発表会」（4時間）「SGH課題研究」で選ばれたグループの発表とSSHの発表を実施

(エ) 第3学年

a 課題研究を研究報告書にまとめる。（10時間）

b 自己のあり方について考える。（4時間）

ウ 教育課程の編成「学校設定教科グローバルラーニング（GL）」（研究開発2）

(ア) 地理歴史・公民分野の学校設定科目（GL科目）

学校設定教科「グローバルラーニング」に学校設定科目「GL世界史」（普通科1年4単位）「GL地理」（普通科2年4単位）「GL日本史」（普通科2年4単位）、「GL政経」（普通科3年2単位）「GL倫理（普通科3年2単位）」を設定、グローバルな社会課題を歴史的観点・地理的観点から考察する内容の授業を実施

(イ) 「GLアクティブ」（週時程外に実施）

- ・浅草インタビュー調査と東京ジャーミイ（令和元年8月1日、21日） 2回実施
- ・国立歴史民俗博物館研修（令和元年8月6日、23日） 2回実施
- ・『醸造文化、地域活性化を学ぼう』（令和元年8月22日）
- ・筑波大学・東京外国語大学・東京大学訪問（令和元年10月28日）
- ・『世界の市場を視野に入れたビジネスモデルについて学ぼう』（令和2年1月9日）

エ 国内グローバル研修（研究開発3）

英語宿泊研修（令和元年9月30日～10月2日（2泊3日）体験型国際研修センターブリティッシュヒルズ）普通科第1学年91名参加、英語での生活を疑似体験、指導の下課題研究について英語でのプレゼンテーションを実施

オ 海外グローバル研修（研究開発4）

(ア) オランダ派遣（令和元年11月7日～11月17日）

- ・普通科第1学年5名参加（事前研修20回実施）、シーボルトハウス、国立民族学博物館等で調査、ライデン大学での交流、ドラードカレッジにて国際青少年会議に参加
- ・令和元年12月23日、第1学年生徒対象に報告会を実施

(イ) オーストラリア短期研修（令和元年7月20日～8月3日）

- ・普通科第2学年20名参加（事前研修15回実施）、ナンボークリスチャンカレッジ

にて課題研究発表，研究テーマについてディスカッション，クイーンズランド大学での模擬講義，大学生とのグループトーク等を実施

- ・令和元年10月8日，第1・2学年生徒対象に報告会を実施

(ウ) S G Hシンガポール海外研修（令和元年9月18日～9月21日）

- ・普通科第2学年17名参加（事前研修21回実施），フィールドワーク（現地企業，イスラム寺院，ナショナル・ミュージアム等），クレアシンガポール事務所で課題研究の助言を受け，セントジョセフインスティテューションを訪問し，課題研究発表，研究テーマについてディスカッションを実施した。
- ・令和元年10月8日，第1・2学年生徒対象に報告会を実施

(エ) S G Hドイツ海外研修（令和2年3月13日～3月19日に実施の予定であったが，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

- ・普通科第2学年10名参加予定であった。（事前研修は18回実施），
- ・実施予定であった内容
 - ▶ ツェツィリアンギムナジウムにて課題研究発表，研究テーマについてのディスカッション
 - ▶ デュッセルドルフ大学学生とのグループトーク
 - ▶ デュッセルドルフ市庁訪問，日本総領事館にて課題研究発表，フィールドワーク（ツォルフォアアイン炭鉱遺跡群，ボン歴史博物館等）

(オ) S G Hイギリス海外研修（令和2年3月21日～3月28日に実施の予定であったが，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

- ・普通科第2学年10名参加予定であった。（事前研修は17回実施）
- ・実施予定であった内容
 - ▶ 現地の調査，ジャパンハウスで課題研究発表及び助言の享受
 - ▶ ホリポートカレッジにおいて交流，同校生徒及びオックスフォード大学生に向けて課題研究のプレゼンテーションやディスカッションの実施

カ 大学との連携（研究開発5）

(ア) 千葉大学

- ・『千葉大学環境ISOとの連携』
令和元年7月9日，千葉大学で開催された千葉大学環境ISO意見交換会に本校2年生2名が参加。千葉大学サステナビリティレポート2019の内容、SDGsの取組，環境問題等について討議を行う。
- ・令和元年9月17日，千葉大学環境ISO学生メンバー8名が本校来校。第2学年6・7限の総合的な学習の時間に参加。2名ずつ4チームに分かれて，千葉大学環境ISOの活動内容をプレゼンしていただき，質疑応答で理解を深める。その後は，本校の課題研究のミニ発表会に助言者として参加いただく。
- ・課題研究への参観・助言
 - ガイタニディス・ヤニス助教の参観・助言（令和元年9月17日）
 - 小林聡子准教授の参観・助言（令和2年1月28日）

(イ) 東京大学

- ・1年生『GL探究』の助言・指導
令和元年9月3日，東京大学阿古准教授による1年生の課題研究テーマ「1分間スピーチ」への参観，助言・指導。
- ・『東京大学GLアクティブ研修』（令和元年10月28日 東京大学）普通科第1・2学年16名参加。中国からの留学生と懇談。本校生徒（2班）の課題研究発表への指導・助言。

(ウ) 筑波大学

- ・『筑波大学GLアクティブ研修』（令和元年10月28日 筑波大学）普通科第1・2学年28名参加，筑波大学人間系藤田晃之教授の模擬授業体験。

(エ) 東京外国語大学

- ・『東京外国語大学SGH研修』（令和元年10月28日 東京外国語大学）普通科第1・2学年19名参加，大学院総合国際学研究院橋本雄一准教授の模擬授業体験。
- ・令和2年2月5日，国立大学法人東京外国語大学と千葉県立佐倉高等学校で高大連携協定を締結

キ 企業・国際機関等との連携（研究開発6）

(ア) 国立歴史民俗博物館

- ・『歴博で、海外に発信する日本文化を身につけよう！』（令和元年8月6日，23日 国立歴史民俗博物館，佐倉市内）第1学年32名参加。
講師 歴史民俗博物館 福岡万里子准教授 展示解説
講師 歴史民俗博物館 田中大喜准教授 展示解説

(イ) 東京ジャーミイ・トルコ文化センター

- ・『浅草インタビュー調査と東京ジャーミイ』（令和元年8月1日，21日）で訪問。普通科第1学年70名参加。モスクの案内及びイスラム文化について学習。

(ウ) 千葉醤油とNIPPONIA SAWARA

- ・『醸造文化，地域活性化を学ぼう』（令和元年8月23日）で訪問。
伝統的な醤油醸造過程の説明見学，最新のハラール認証醤油の解説
佐原重要伝統的建造物群保存地区の活性化を図る NIPPONIA SAWARA の宿泊事業の案内。地元金融機関（佐原信用金庫・京葉銀行）の地域活性化への資金協力の説明。

(エ) 佐倉国際交流基金

- ・佐倉国際交流基金が主催する「外国人のための日本語講座」との連携
- ・生徒課題研究「ハラールラーメン」班の試食会で連携

ク 教育課程の編成（課題研究以外の研究開発1）

- ・学校設定教科「グローバルラーニング」に学校設定科目「GLコミュニケーション英語」（普通科1年3単位・2年4単位），「GL英語研究」（普通科1・2年各2単位）を設定し，オールイングリッシュの授業により，グローバルな課題を教材に取り上げ，プレゼンテーションやディベート等の活動を取り入れ，英語でのコミュニケーション能力の向上に重点的に取り組んでいる。

ケ 英語力，英語を用いてのコミュニケーション能力の育成（課題研究以外の研究開発2）

(ア) 英語力向上対策講座

実用英語技能検定試験2級以上取得を目指し，希望者に面接講座を実施，103名参加

(イ) 英語を用いたコミュニケーションの機会

- ・SMK SEKSYEN18校及びST JOHN校（マレーシア）来校（令和元年11月29日）時にSGH課題研究発表、ディスカッション、交流を実施（普通科41名参加）
- ・ドラードカレッジ（オランダ）生徒4名教員1名来校（令和元年4月25日）時、授業参加、交流（普通科生徒66名参加）、部活動交流
- ・千葉県英語部会主催の英語ディベート講習会、大会に参加（のべ17名）

コ 地域や同窓会との連携（課題研究以外の研究開発3）

- ・『世界の市場を視野に入れたビジネスモデルについて学ぼう』（令和2年1月9日）SGH、GLアクティブ講座及びドイツ海外研修事前研修の一環として開講、デュッセルドルフでビジネス経験の豊かな同窓生寒郡茂樹氏の講義を実施，海外研修参加者

- および1、2年生希望者合計18名が参加
- ・佐倉市内の小学校と連携し、課題研究に係る生徒による小学校での出前授業を実施
- ・佐倉市中央公民館主催の佐倉市内小学校の通学合宿にて本校E S S部の生徒が小学生を対象に英語の授業を実践
- ・佐倉市国際交流協会と連携し、海外にルーツを持つ佐倉市住民4名より課題研究に係る助言を受ける

7 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 「研究開発1」「課題研究以外の研究開発2・3」

ア 目標の進捗状況

「課題解決能力」「創造的提案を的確に発信する力」「英語力」を身に付けさせることを目標に、概ね計画どおり実施した。

イ 検証方法

生徒によるアンケート（1学年は令和元年6月と令和2年2月、2学年は平成31年2月と令和2年2月、3学年は令和元年6月に実施）、課題研究の発表の件数、進路希望の変容、留学生等の外部からの評価、英語検定等の結果

ウ 成果

1年生は、取り上げた課題の解決に向けてグループごとに研究の方向を明確にして、調査・分析を円滑に進めた。2年生は、グループごとに行行政機関、地域の商店、小学校、NPO法人等の協力を得て、社会と関わりをより一層深めながら調査や検証を行ない、課題解決に向けた具体的な提案を発表することができた。「他国の人に対して、日本人として日本の歴史・伝統・文化を踏まえてグローバルな課題について解決策を提案できる」について、肯定的回答率が3年生では約10%上昇、2年生は約3%上昇、1年生はほぼ同率となっており、学年の進行とともに課題解決能力は増していると捉えた。また、校外において課題研究の発表数は延べ18グループ、また、2年生においては「将来海外留学をしたり、仕事で国際的に活躍したいと考えている」に対する肯定的回答が10%以上上昇している。学校設定科目「GLコミュニケーション英語」においてオールイングリッシュの授業を展開するとともに、4技能をバランス良く育成することができた。英語検定2級以上取得者は291名であり、全校生徒の30%にあたる。3年生は英検I B Aで2級相当にあたる生徒が85%を超えた。

エ 評価

1年生の「GL探究」の教材の工夫・改善、実施内容の改善により、円滑に研究を進めることができている。2年生については、上級生の研究方法等を参考にすることで、生徒の主体的な探究活動に結びついた。「課題解決能力」について直近の自己評価で「求めているレベルに概ね達している」以上の評価をした生徒は2・3年生で90%を超えており、やはり学年の進行とともに、研究の過程や成果から課題解決能力が向上したと捉えている。「GLコミュニケーション英語」、英語でのプレゼンテーション、海外研修、留学生等との交流が英語力向上に有効であった。課題研究を行なう時間の確保、英語での対応力の養成について改善が必要である。

(2) 「研究開発2・3・5・6」及び「課題研究以外の研究開発1」

ア 目標の進捗状況

「日本の歴史・伝統・文化を理解する力」「思考力・判断力・表現力・情報活用能力」「グローバルな社会課題に対する関心・意欲・探究心」「コミュニケーション能力」を身に付けさせることを目標に、概ね計画どおり実施した。

イ 検証方法

生徒、保護者によるアンケート及び課題研究等の成果の分析

ウ 成果

直近のアンケートでの「日本の歴史・伝統・文化について語ることができる」については、2・3年生は70%を超える肯定的回答率となった。「日本と世界との歴史的つながりを踏まえ、日本の未来の在り方を志向し、グローバルな視点で歴史、伝統、文化、芸術、政治、経済、環境等について考えることができる」については、肯定的回答率が生徒は3年生59.8%、2年生59.9%、1年生59.9%であった。「グローバルな社会課題に対する関心が高く、主体的に社会課題を探究しようとしている」については、肯定的回答率が1年生は61.6%であり昨年度の1年生よりも5.0ポイント高い。一昨年度の1年生より11.6ポイント上昇している。国内グローバル研修の参加人数を増やし「GLコミュニケーション英語」でのアクティビティを取り入れることで、英語のコミュニケーション能力の向上に取り組めた。

エ 評価

課題研究に「日本の歴史・伝統・文化」を関係づけることで理解が深まった。グローバルな社会課題に対する関心・意欲・探究心を高める上では「GL探究」「GLアクティブ」における大学や関係機関との連携（研究開発5・6）が有効であった。国内グローバル研修（研究開発3）は、参加人数を増やすことで生徒の英語でのコミュニケーション能力を高めようとする意欲に結びついている。学校設定教科（研究開発2）については、グローバルな視点を重視した授業や科目横断的内容を取り入れる授業を行うことで、課題研究と関係づけて学習することができ効果的であった。生徒同士のコミュニケーションの在り方の改善が必要である。

(3) 「研究開発4」

ア 目標の進捗状況

「日本と諸外国を比較検討し異文化を理解しより良き未来を指向する力」の育成を目標に、概ね計画どおり実施した。

イ 検証方法

生徒の報告書の分析

ウ 成果

2年生が参加した4か国の研修では、現地の高校生等に課題研究に係るプレゼンテーションとディスカッションを行うとともに、研究に係る調査を実施した。アンケートによると、研修を通じて93%の生徒が新たな視点を得たと回答しており、昨年度より9%上昇している。オランダ派遣については、1年生のみの派遣であったが、ライデン大学学生等とのディスカッションやフィールドワークを経験し、課題研究を進める上で有効であった。

エ 評価

海外グローバル研修を通して生徒が研究に取り上げた課題について新たな視点を獲得等、課題研究を深める上で有効であり、当該生徒の所属するグループの研究は、調査をもとに実現可能な解決策が具体的に示されている。海外研修に参加した生徒は、ループリック評価も他の生徒と比較すると自己評価が高い。また、海外で英語を用いる経験から英語の学習の必要性を生徒自ら認識することができた。

8 次年度以降の課題及び改善点

(1) 教育課程の研究開発の状況について

地歴・公民、外国語にとどまらず、国語、芸術などにおいても随所に日本の歴史・伝統・文化について踏まえた多文化共生社会の構築について考察させる機会を設けていくことができた。今後も引き続き、効果的な教材の使用や工夫・改善により、生徒にグローバルな視点での「気づき」を与えるきっかけを授業の中で作り、探究学習と連動させるような授業を展開できるようにしていく。探究学習においては、原点に帰り、課題の設定理由を明確化させ、調査・発表が形式的なものにならないようにしていくことが課題である。

(2) 高大接続の状況について

千葉大学をはじめとする大学との連携は年々強化されてきており、今後も引き続き課題研究に係る指導・助言を仰ぎ、アプローチの角度を変えて考察させるきっかけを与えたい。また、海外研修に参加できるのが、実際のところ全生徒の22%ほどであるため、英語の必要性をより促し、グローバルな視点での問題意識を共有できるように、東京外国語大学との連携協定などを踏まえ、留学生の活用を更に活性化させたい。

(3) 生徒の変化について

これまでホームページ等による情報発信・広報活動が功を奏し、本事業がスタートした1年目の入学生については「国際化に重点をおいている大学に進学したい」という質問に対して肯定的に答えた生徒が約45%であったが、今年度の入学生については、75%以上の生徒が肯定的に回答している。本校が求める生徒像が具体化し、入学してくる生徒の目的意識も変化している。今後は、学習・部活動・生徒会活動とのバランスをとりながら、その能力をより一層伸展させ、進路希望の実現を図ることが課題である。

(4) 教師の変化について

本校では、探究活動の質的向上を重点目標の1つに掲げているが、職員による「学校評価アンケート」において「学校の教育方針や努力目標に沿って努力している」という質問項目に対して、98.6%が肯定的な回答をしている。本事業が4年目を終え、全職員で取り組む探究学習指導が定着し、学校全体で組織的に本事業を活性化させていると言える。今後は入れ替わる職員に対しての研修を徹底し、この潮流を維持・発展させていくことが課題である。

(5) 学校における他の要素の変化について（授業、保護者等）

本事業がスタートした1年目の保護者が「国際化に重点をおいている大学に進学させたい」と質問に対し、61.8%の肯定的回答が得られたが、今年度は87.8%になり、飛躍的な伸びを示している。保護者が本校に期待するものも変容している。生徒・保護者のニーズに応えるべく、進路指導の更なる充実が課題である。

(6) 課題や問題点について

職員の業務負担をいかに均衡化し、効率よく本事業を進めていけるかが課題となる。また、本事業終了後の学校設定教科の存続、これまで築いてきた海外現地校との関係の継続性などが課題となる。

(7) 今後の持続可能性について

探究学習については、改善を加えながら作成してきた教材を継続的に使用し、学校全体で取り組む姿勢を崩さず、主体的・協働的に問題解決できる生徒を育成していく。予算をなるべくかけずに研究・調査を進められる方法を模索し、生徒の「学びたい」という気持ちを絶やすことなく継続させていく。5カ国で実施していた海外研修については、隔年での交流や、オンラインでのWeb会議ツールを利用して交流を深めるなど、ICT機器の利用促進による海外現地校との交流も検討する。

【担当者】

担当課	教育振興部学習指導課	T E L	043-223-4056
氏 名	小西 一央	F A X	043-221-6580
職 名	指導主事	e-mail	k.knsh2@pref.chiba.lg.jp